

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 8 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

特殊報第 1 号

1 病 害 名 ダイズ褐色根腐病

2 病 原 菌 *Neocosmospora vasinfecta*

3 発生作物 大豆

4 発生の経過と概要

令和 7 年 9 月、県内の大豆ほ場で、葉に退緑えそ斑が生じ（図 1）、地際部及び根が黒褐色に腐敗した株が確認された。これらの株は側根が脱落し、主根のみが残る、いわゆる「ゴボウ根」状態であった（図 3）。また、根の表面には、赤褐色の小粒（子のう殻）が多数形成されており（図 4）、ダイズ黒根腐病の症状と酷似していた。

福岡県農林業総合試験場において、この小粒（子のう殻）の中に形成されている子のう胞子を顕微鏡下で観察したところ、平成 27 年度に富山県農林水産総合技術センターが「農業分野試験研究の成果と普及」で報告した「褐色根腐病」の病原菌 *Neocosmospora vasinfecta* の子のう及び子のう胞子と形態が同一であった。これらのことから、本病害をダイズ褐色根腐病と同定した。

5 国内での発生状況

本病は、平成 27 年に富山県の大豆栽培ほ場で初めて確認されたが、それ以降の発生事例は報告されていない。

6 病徴

病徴はダイズ黒根腐病と酷似しており、肉眼による識別は困難である。

罹病株の葉には退緑えそ斑が生じ（図 1）、株全体が黄化し健全株よりも早く落葉する（図 2）。

また、根及び地際部全体が褐色から黒色に変化し、側根の減少が見られる。発病が著しい場合には、根の側根は腐朽、脱落し主根のみが残り「ゴボウ根」の状態となる（図 3）。罹患した根の表面には、赤褐色の小粒（子のう殻）が多数形成される（図 4）。

7 病原菌の性質

糸状菌の一種で子のう菌類に属し、子のう胞子を形成する。子のう殻は赤褐色で、その中に円筒状の子のうを形成し、その内部に広楕円形の子のう胞子、8 個 1 列を含む（図 5、6）。

8 防除対策

国内2例目の確認であり、詳しい生態や防除対策は明らかではないが、一般的な病害に対して有効な以下の対策を推奨する。

- (1) 被害株はすき込まず、見つけ次第ほ場外へ持ち出し早急に処分する。
- (2) 多肥（窒素過多）を避ける。
- (3) 排水対策を実施し、過湿を避ける。
- (4) 連作を避ける。
- (5) ほ場間を移動する際には、使用した農機具や長靴を洗浄する。



図1 葉の退緑えそ斑



図2 黄化・早期落葉した発病株



図3 ゴボウ根状態の主根



図4 根に発生した赤色の子のう殻

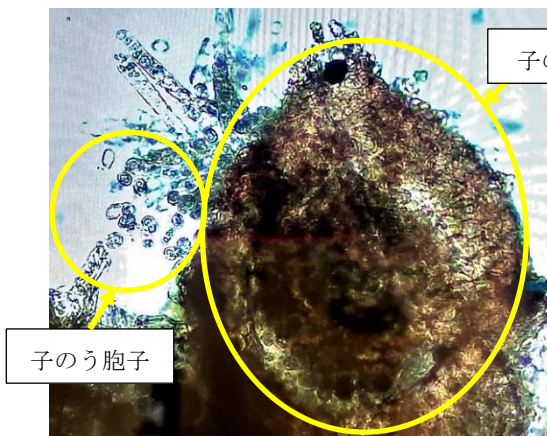


図5 子実殻・子実胞子



図6 子実胞子を含む子実胞子

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>
または右QRコード①

①⇒



○X (旧Twitter) で定期情報や注意報等発出のお知らせをしています。

Xの本アカウト（福岡県農作物病害虫情報）へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②

②⇒

